

米沢市市勢要覧

2024年版
(令和6年12月1日現在)

目次

1 米沢市のあゆみ.....	2
2 米沢市の概要	2
○米沢市役所の位置	2
○米沢市の位置	2
○面積.....	2
○気象.....	3
○交通.....	3
○市章.....	3
○市の木、市の花(昭和54年11月3日).....	3
3 市域の変遷	4
4 市民憲章(昭和37年10月26日制定).....	4
5 都市宣言	5
6 姉妹都市等	5
○姉妹都市.....	5
○歴史親善友好都市	5
○友好都市.....	6
7 人口	6
8 産業	7
○農業.....	7
○工業.....	7
○商業.....	8
○観光.....	9
9 学園都市	12
10 総合計画	13
<米沢の歴史>	14

1 米沢市のあゆみ

米沢の地名は中世後期から見られ、地名の由来はヨネ(米)のなるサワ(草の生える湿地)との説や、白い水が湧く米井(よねい)があることからきた説などがあります。

鎌倉時代に地頭が置かれて以降、まちが形成され、特に伊達氏支配の 212 年間のうち、晴宗、輝宗、政宗が治めた 43 年間、上杉氏が 272 年間、本市を本拠としたことにより、両氏の城下町として栄えました。現在に残る米沢の城下町の基礎を築いたのは、米沢藩初代藩主・上杉景勝の家老である直江兼続です。

本市は、明治 22 年 4 月 1 日に我が国で最初に市制を施行した 31 市の中の1市であり、昭和 28 年から昭和 30 年にかけて周辺の 10 村との合併を経て、平成 31 年度には市制施行 130 周年を迎えました。「置賜(おきたま)地域」と呼ばれている山形県南3市5町の中心都市として行政、産業、教育、文化など幅広い面での中核性を持っているほか、山形大学工学部、山形県立米沢栄養大学、山形県立米沢女子短期大学の3つの高等教育機関があり、3大学合わせて 3,600 人ほどの学生が米沢で生活しています。人口規模 7.7 万人前後の都市に3つの大学が立地している例は全国的にも少なく、本市の大きな特色のひとつとなっています。

産業面では、以前は農業と上杉鷹山が行った殖産振興政策の代表「米沢織」を中心とした織物関連産業が、その発展とともに長く米沢の経済を支えてきました。昭和 30 年代から行われた企業誘致などにより情報通信機械器具製造業を基幹とする先端技術産業が隆盛となりました。昭和 53 年(1978)から分譲を開始した我が国初の中核工業団地「八幡原中核工業団地」が順調に推移した結果、東北有数の製造品出荷額等を誇る「ものづくりのまち」へと変貌しました。

2 米沢市の概要

○米沢市役所の位置

北緯 37°55' 東経 140°07'

○米沢市の位置

山形県の最南端に位置し、山形県の母なる川「最上川」の源である吾妻連峰の裾野に広がる米沢盆地にあり、北は高島町と川西町に、西は飯豊町に東と南は福島県に接しており、市域の南側に広がる吾妻連峰は、大部分が磐梯朝日国立公園に指定されています。

○面積

548.51 km²(東西 32.1 km、南北 28.2 km)

○気 象

夏は高温多湿で、冬は寒さが厳しく降雪量が多い気候です。市街地でも平年の最深積雪が100 cmを超える年もあり、全域が特別豪雪地帯に指定されています。

(平成31年～令和5年の平均気象概況)

平均気温 12 度、年降水量 1,442.4 mm、日照時間 1,693.1 時間、
最深積雪量 98.4 cm

○交 通

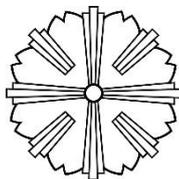
本市の主要幹線道路として、国道は、福島から栗子峠を越え、市内を縦断して山形市方面に抜ける国道13号、窪田町窪田を起点として市内を横断し、福島県会津地方へ抜ける国道121号、成島町を起点として広幡地区を通り、川西町へと抜ける国道287号があります。主要地方道(県道)は、相生町から上郷地区を通り、高島町へ抜ける県道1号米沢高島線、中央から南原地区を通り、福島県会津地方へ抜ける県道2号米沢猪苗代線、大町から塩井・六郷地区を通り、川西町や南陽市へ抜ける県道3号米沢南陽白鷹線などがあります。

また、平成29年度に開通した東北中央自動車道福島・米沢間は、相馬市と新庄市まで延伸され、首都圏だけでなく、県北からもアクセスが向上し、地域経済の活性化が図られています。

鉄道はJRの2路線で、福島から米沢を通り、山形市や秋田県、青森県に至る奥羽本線と、米沢駅を始発終着駅とし、新潟県へ至る米坂線があります。奥羽本線上は山形新幹線が走っており、観光やビジネス面で利便性の高い足として活躍しています。

※米坂線は、令和4年8月の豪雨災害により一部区間運休しているため、代行バスによる輸送を実施しています。

○市 章



米沢市の「米」の字を8本の扇(末広)で構成。四方八方への未来の発展を祈念し、桜で末広をつなぎ、明るく住みよい郷土を象徴したものと伝えられています。

○市の木、市の花(昭和54年11月3日)

市制施行90周年を記念し、選考委員会で選出した市の木・市の花の候補各5種の中から一般公募を行い、制定しました。

(市の木)こめつが



マツ科ツガ属の常緑高木で、米杵と表記するが日本固有の種。「米(こめ)」に例えたもの。ツガと似ているが、コメツガのほうが葉も球果も少し小さい。

(市の花)あずましゃくなげ



西吾妻山などに自生しているツツジの仲間。つぼみのときは色が濃く、開くと淡い色になります。花冠が5つに裂けた、華やかな花を咲かせます。

3 市域の変遷

(単位:km²)

編入等年月日	編入地区等	編入面積	編入後面積
明治 22 年 4 月 1 日	市制施行		18.48
昭和 28 年 8 月 1 日	上長井村	7.90	26.38
昭和 29 年 10 月 1 日	万世村、広幡村、塩井村、六郷村	88.64	115.02
昭和 29 年 11 月 1 日	窪田村、三沢村	159.20	274.22
昭和 30 年 1 月 1 日	山上村	116.77	390.99
昭和 30 年 2 月 1 日	上郷村	25.82	416.81
昭和 30 年 4 月 1 日	南原村	132.67	549.48
昭和 30 年 7 月 22 日	川西町との境界変更	△0.59	548.89
昭和 63 年 10 月 1 日	国土地理院調	△0.15	548.74
平成 19 年 4 月 10 日	高島町との境界変更	0.00	548.74
平成 26 年 10 月 1 日	国土地理院面積計測方法の変更	△0.23	548.51

4 市民憲章 (昭和 37 年 10 月 26 日制定)

私たちは、伝統にかがやく米沢市の市民であることにほこりと責任を感じ、この憲章をかかげて教育文化のまち、産業のまち、福祉のまち、観光のまちとして、公德心の高い、よりよい社会をつくることに努めます。

- 一、教養をたかめ、文化のまちをつくりましょう。
- 一、勤労をたつとび、豊かなまちをつくりましょう。
- 一、互いに助けあい、楽しいまちをつくりましょう。
- 一、きまりを守り、公共物を愛し、明るいまちをつくりましょう。
- 一、郷土を愛し、きれいなまちをつくりましょう。

5 都市宣言

- 交通安全都市宣言(昭和 37 年 3 月 26 日 議決)
- 福祉都市宣言(昭和 57 年 9 月 19 日 宣言)
- 平和都市宣言(昭和 63 年 3 月 23 日 議決)
- 暴力のない明るい都市宣言(昭和 63 年 3 月 23 日 議決)
- ゆとり創造都市宣言(平成 2 年 10 月 15 日 議決)
- 環境保全都市宣言(平成 9 年 3 月 26 日 議決)

6 姉妹都市等

○姉妹都市

タウバテ市(ブラジル)

米沢市に工場を持つ当時の田村電機製作所がタウバテ市に工場を進出した機縁により、昭和 49 年(1974)1 月 28 日に提携しました。

高鍋町(宮崎県)

米沢藩 9 代藩主上杉鷹山の実家、秋月家の城下町で鷹山のゆかりで市民間の交流が盛んになり、昭和 56 年(1981)4 月 27 日に提携しました。

モーゼスレイク市(アメリカ)

両市の経済団体等が友好交流を深め、訪問したことをきっかけに、本市に米沢モーゼスレイク友好親善協会が結成され、昭和 56 年(1981)5 月 1 日に提携しました。

上越市(新潟県)

米沢藩上杉家の家祖上杉謙信の生誕の地であり、地縁など両市民の多くがお互いの心に絆を持ち合わせていることから、昭和 56 年(1981)10 月 7 日に提携しました。

沖縄市(沖縄県)

米沢藩最後の藩主上杉茂憲が第 2 代沖縄県令に就任して以来、さまざまな交流を展開し、平成 6 年(1994)4 月 1 日に提携しました。

東海市(愛知県)

東海市出身の儒学者細井平洲が、上杉鷹山の師弟関係にあった歴史的つながりから市民間の交流が深まり、平成 12 年(2000)10 月 20 日に提携しました。

○歴史親善友好都市

南魚沼市(新潟県)

南魚沼市(旧六日町)は、米沢藩初代藩主上杉景勝とその重臣である直江兼続の生誕の地であり、以前から郷土史関係団体を中心とした交流が活発に行われていたことから、昭和 61 年(1986)9 月 1 日に提携しました。

○友好都市

西尾市(愛知県)

江戸時代に上杉家と吉良家とが、それぞれのお家存続を図るため「三重の縁」という縁戚関係にあったことから、市民間の交流が活発に行われるようになり、平成25年(2013)12月15日に提携しました。

7 人口

国勢調査において、昭和50年から平成7年までは一貫して増加してきましたが、平成12年には減少に転じ、令和2年の国勢調査人口は81,252人でした。平成7年と比較して約14,000人減少しています。

(年次別人口と世帯数)

年次	人口(人)			世帯数 (世帯)
	総数	男	女	
昭和50年	91,974	44,622	47,352	24,782
昭和55年	92,823	45,209	47,614	25,564
昭和60年	93,721	45,650	48,071	27,143
平成2年	94,760	46,513	48,247	28,713
平成7年	95,592	47,242	48,350	30,678
平成12年	95,396	47,364	48,032	32,558
平成17年	93,178	46,104	47,074	33,314
平成22年	89,401	43,953	45,448	33,013
平成27年	85,953	42,100	43,853	32,997
令和2年	81,252	40,258	40,994	33,095

※国勢調査に基づく数値

(年齢3区分別人口)

区分	人口(人)	総人口に占める割合(%)
年少人口(15歳未満)	8,883	10.9
生産人口(15~64歳)	46,979	57.8
老年人口(65歳以上)	25,390	31.2
(老年人口のうち75歳以上)	(13,577)	(16.7)

※令和2年の国勢調査に基づく数値

8 産 業

○農 業

水稻を基幹作物とし、全国的に有名な銘柄である「米沢牛」等の畜産とともに、舘山りんごなどの果樹栽培やアルストロメリアやりんどうなどの花き栽培などとの複合経営による農業振興を図っています。また、雪菜、遠山かぶ、豆もやしなどの伝統野菜を始めとする地域特産物の地産地消と六次産業化を目指した取り組みを行っています。

販売目的で作付(栽培)した作物の類別作付(栽培)経営体数及び面積

区分	経営体数	面積(a)
稲	665	225,179
麦類	X	X
雑穀	67	X
いも類	47	190
豆類	147	23,628
工芸農作物	10	649
野菜類	22	7,830
花き類・花木	107	X
その他の作物	121	21,542
計	767	313,023

※2020年農林業センサス

○工 業

我が国初の中核工業団地である「八幡原中核工業団地」や平成12年に分譲を開始した「米沢オフィス・アルカディア」があり、米沢織物を中心とした繊維産業から情報通信関連を中心とする精密加工産業に転換してきました。

この結果、現在では、製造品出荷額等は県内で上位に位置し、東北地域においても有数の工業都市となっています。研究開発機能の集積を図るとともに、山形大学工学部で開発が進む有機エレクトロニクス分野や先端技術研究を活かした産学官連携による新産業創出に取り組んでいます。

(産業中分類別事業所数、従業者数、製造品出荷額)

分類別	事業所数	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (万円)
食料	23	586	1,461,351
飲料等	4	65	105,295
繊維	57	883	625,684
木材	8	111	318,144
家具	10	70	53,615
紙	7	194	406,740
印刷	11	372	657,323
化学	7	431	1,626,690
石油	2	10	X
プラスチック	9	197	230,314
ゴム	2	186	X
皮革	1	11	X
土石	12	972	1,697,365
鉄鋼	3	30	43,211
非鉄	3	450	3,065,650
金属	19	509	1,455,229
はん用機械	5	419	1,100,352
生産用機械	39	1,964	4,926,865
業務用機械	1	55	X
電子	20	1,552	10,238,203
電機	8	526	4,069,754
情報	13	1,674	19,286,196
輸送	4	64	43,850
その他	8	58	63,282
総数	276	11,389	51,845,364

※「山形県の工業」令和5年経済構造実態調査 製造業事業所調査

※数値には個人経営の事業所及び法人以外の団体の事業所を含まない

※Xは秘密保護上、数値を公表できないもの(数値が秘匿されているもの)

○商業

郊外型の総合スーパーや大型専門店、量販店、ドラッグストアの進出等により、まちなかの既存商店の郊外への移転や廃業が進むとともに、市内全体の商店数も減少傾向に

あります。そこで、賑いの創出による商業の活性化を目指して、商店街等の賑いづくりと個店の魅力向上に向けた事業に取り組むとともに、関係機関と連携し創業検討段階から創業後のフォローアップまで創業者の支援を行い、次世代の産業の担い手育成を図っています。

(産業分類別事業所数、従業者数、年間商品販売額)

分類別	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (万円)
卸売業			
各種商品卸売業	4	19	X
繊維・衣服等卸売業	24	102	184,445
飲食料品卸売業	35	334	1,598,523
建築材料・鉱物・金属材料等卸売業	38	338	1,460,938
機械器具卸売業	49	313	1,342,217
その他の卸売業	35	268	1,779,017
卸売業計	185	1,374	6,468,989
小売業			
各種商品小売業	1	10	X
織物・衣服等小売業	62	310	456,630
飲食料品小売業	192	2,247	3,046,452
機械器具小売業	129	771	1,784,711
その他の小売業	270	1,807	X
無店舗小売業	26	236	449,520
小売業計	680	5,381	9,356,953
合計	865	6,755	15,825,942

※「令和3年山形県の商業」令和3年経済センサス-活動調査(卸売業,小売業)に関する結果報告書(産業格付編)

※Xは秘密保護上、数値を公表できないもの(数値が秘匿されているもの)

○観光

上杉神社をはじめとする上杉氏にゆかりのある名所旧跡はもとより、国宝「洛中洛外図屏風」や「上杉家文書」などの貴重な文化財があるほか、「米沢上杉まつり」、「なせばなる秋まつり」、「上杉雪灯籠まつり」と四季を通じて米沢の心を表現するまつりを開催しています。

また、上質な美味しさの米沢牛をはじめとする米沢の味A(Apple)B(Beef)C

(Carp)など食の宝庫でもあり、さらに名湯・秘湯など温泉資源にも恵まれていることから、歴史と伝統文化が息づく「上杉の城下町」として全国から年間 300 万人を超える観光客が本市を訪れる県内屈指の観光都市です。

(主な観光名所)

名称	内容
上杉神社	米沢藩上杉家の家祖上杉謙信を祀る神社
上杉家廟所	上杉謙信及び歴代の米沢藩主が埋葬されている墓所
米沢市上杉博物館	数千に及ぶ上杉家ゆかりの貴重な品々が収蔵され、上杉の歴史や文化を知ることができる
春日山林泉寺	上杉家の奥方や直江兼続など重臣名家のお墓がある
笹野観音	弘法大師の高弟徳一上人の開基と言われ、伊達家、上杉家と歴代領主の信仰が篤く、別名あじさい寺として有名
小野川温泉	小野小町が旅の途中に発見し、この湯で病を癒したと伝えられており、美人の湯として知られている
白布温泉	古くから蔵王(山形)、信夫(福島)とともに奥州三高湯の一つとして知られ、1312年の開湯以来 700 年余の歴史を誇る
天元台	日本百名山のひとつ、西吾妻山の中腹に位置し、春から夏にかけて高山植物が咲き乱れ、冬はスキー場として本州屈指のパウダースノーを楽しむことができる

(主な米沢の味)

名称	内容
米沢牛	1年を通して寒暖の差が大きく、山紫水明の地で育ったその肉は、きめ細かな霜降りと脂の質の良さが特徴
館山りんご	館山地区を中心に明治時代からりんごの生産が盛んで、寒暖の差と土壌が香り高く実の硬いりんごを育む
米沢鯉	清らかな水と冬の厳しい寒さの中で育てられ、泥臭さがなく、身が引き締まった良質な鯉として好評を得ている
米沢らーめん	細い縮れ麺にあっさり醤油スープが特徴で、毎日食べても飽きないラーメンとして老若男女を問わず支持されている
うこぎ	上杉鷹山がうこぎの垣根を奨励したとされ、春から初夏にかけて新芽が美味しく、きりあえや天ぷらなどで食される
雪 菜	雪の中で育つ珍しい野菜で、軽く湯通しして漬けると独特の辛味が出る。代表的な料理としてふすべ漬けなどがある

(主なまつり)

名称	内容
米沢上杉まつり	米沢の春を告げるまつり。開幕祭や上杉謙信の出陣の儀式である武てい式、上杉行列や戦国史上最大の激戦といわれた川中島合戦などが行われる(4月29日～5月3日開催)
よねざわ戦国花火大会	ドローンショーや武将隊の演武と花火を組み合わせた新しい花火エンターテインメント。戦国時代をテーマに、約8,000発の花火が夜空を彩る
上杉雪灯籠まつり	約200基の雪灯籠と約1000個の雪ぼんぼりに火が灯され、会場一帯が冬の幻想的な美しい情景に包まれる。また、戦没者を慰霊する鎮魂祭が行われる(2月第2土・日曜日開催)

(主な伝統工芸)

名称	内容
米沢織物	上杉鷹山が藩の財政を立て直すため、武士の婦女子に内職として機織させたのが発祥。織る前に糸を染める先染絹織物で、化学染料では出し得ない独特の柔らかな色合いが特徴
笹野一刀彫	上杉鷹山が農民の冬の副業として奨励。コシアブラなどの丸材をサルキリと呼ばれる1本の刃物で彫り上げる。作品は、お鷹ぼっぼやにわとり、笹野花などがある

(主な米沢ゆかりの人物)

名称	内容
上杉謙信	戦国最大の激戦といわれた武田信玄との川中島合戦で名高い戦国武将。信義に厚く文武両道に秀でた名将で、領国の繁栄にも尽力し、米沢藩上杉家の家祖として崇敬されている
上杉景勝	叔父上杉謙信の養子になり、豊臣政権では五大老を務め、関ヶ原合戦後は会津120万石から米沢30万石に移封され、米沢藩初代藩主となった
直江兼続	上杉景勝の重臣で文武兼備の智将。上杉家が米沢へ移封後は、城下の整備や農地開発、殖産興業など米沢の国づくりを指揮し、現在の米沢の礎を築いた
伊達政宗	米沢城に生まれ、18歳で家督を継ぐと5年余りで奥州のほぼ半分を手中に収め、江戸幕府成立後は仙台藩62万石の大名として名君ぶりを発揮した

上杉鷹山	米沢藩第9代藩主。窮乏した藩の財政を立て直すため大倭 約令を出し、自ら率先して実践するとともに、殖産興業や学問 の奨励などに力を注ぎ、藩の経済再建を果たした
------	--

(名誉市民)

名称	内容
伊東忠太	日本建築の研究に従事し、築地本願寺、明治神宮、靖国神社 などの設計を手掛け、日本建築史の基礎を築いた建築家
我妻 榮	民法の百科事典といわれる「民法講義」を出版し、日本国憲法 の制定に寄与した民法学者
平 貞蔵	米沢市建設振興計画をはじめ、東北・北海道の開発計画の策 定・指導等、地域の開発と国土資源開発に貢献
福王寺法林	ヒマラヤ山脈などを雄大に描いて日本画に新たな境地を切り 開くなど、院展画家として活躍した日本画家

9 学園都市

本市には山形大学工学部、山形県立米沢栄養大学、山形県立米沢女子短期大学の3つの
高等教育機関が立地しており、これら高等教育機関の機能を活用し、全国から集まる学生が
生活しやすい活気あふれる学園都市を目指し、本市の特色を活かした様々な活動が行われ
ています。

区 分	学 科 名
国立大学法人	高分子・有機材料工学科
山形大学工学部	化学・バイオ工学科 情報・エレクトロニクス学科 機械システム工学科 建築・デザイン学科 システム創成工学科
	大学院
山形県公立大学法人	健康栄養学科
山形県立米沢栄養大学	大学院
山形県公立大学法人	国語国文学科
山形県立米沢女子短期大学	英語英文学科 日本史学科 社会情報学科

10 総合計画

将来像	基本理念	基本目標	施策
ひとが輝き 創造し続ける 学園都市・米沢	市民が積極的に参加するまちづくり	挑戦し続ける活力ある産業のまちづくり	活力ある商工業の振興 自然と文化、歴史を活かす観光の振興 消費者や時代のニーズに合った農林業の振興 安定した雇用と働きやすい環境づくりの推進
		郷土をつくる人材が育つ、教育と文化のまちづくり	これからの時代を生き抜く力を持つ子どもの育成推進 生涯学び、学びを活かして元気に活躍する人づくりの推進 多様な文化芸術と歴史・文化が息づき、豊かな心を育む地域づくりの推進 スポーツで楽しく元気な人づくりの推進 大学と連携した学園都市の推進
		子育てと健康長寿を支えるまちづくり	誰もが元気で健やかに暮らせるまちづくりの推進 安心して生み育てることができるまちづくりの推進 生きがいを持って高齢期を過ごせる長寿のまちづくりの推進 誰もが自立を目指せる環境の整備 身近な支え合いのあるまちづくりの推進 適切な医療を受けられる環境の整備 社会保障制度の安定運営
		自然と都市の魅力が調和し、賑わいと交流を促すまちづくり	快適で住みよい住環境づくりの推進 秩序ある土地利用と景観形成の推進 利便性の高い道路・交通網の整備 安全な水の供給と水環境の保全の推進 環境にやさしいまちづくりの推進
		安全安心に暮らせるまちづくり	いざというときに備えるまちづくりの推進 普段から安全を心がけるまちづくりの推進 冬期も安全安心に暮らせるまちづくりの推進
		持続可能なまちづくり(協働・行政経営)	ICTを活用したまちづくりの推進 交流・つながりを通じ、多くのひとを呼び込むまちづくりの推進 ともに協力し合い、行動するまちづくりの推進 男女共同参画の推進 健全な行政経営の推進 他自治体との広域連携の強化

<米沢の歴史>

西暦	年号	出来事
712	和銅 5	朝廷、出羽国を建国
1189	文治 5	鎌倉幕府の地頭長井時広、米沢地方長井庄を領す(長井時代)
1380	康暦 2	伊達宗遠、長井道広を攻め、長井庄を支配する(伊達時代)
1567	永禄 10	伊達政宗、米沢に生まれる
1591	天正 19	伊達政宗岩出山へ移封。代わって蒲生氏が治める(蒲生時代)
1601	慶長 6	上杉景勝、関ヶ原の戦いで敗れた西軍へ荷担したため、会津120万石から米沢30万石に減封される(上杉時代)
1767	明和 4	上杉治憲(鷹山)が家督を継ぎ、大倭令をしく。この後、殖産興業に努める。藩校を再開し、師である細井平洲が興讓館と命名する
1869	明治 2	13代藩主上杉茂憲、版籍を奉還し米沢藩庁を置く
1871	明治 4	廃藩置県により米沢県誕生。その年のうち置賜県となる。興讓館内に洋学舎を創設、英国人チャールズ・ハンリー・ダラスほか2人の外国人教師を招く
1876	明治 9	県勧業寮からさくらんぼ、りんごの苗木の配布を受ける。これを植えたのが「館山りんご」の発祥とされている
1880	明治 13	万世大路が完成。翌年の明治天皇巡幸の際に開通式を行う
1889	明治 22	市制施行。人口30,234人。全国で最初に市制を施行した31市の1つ
1897	明治 30	米沢市立工業高校(現山形県立米沢工業高等学校)創立
1898	明治 31	米沢市立高等女学校(現山形県立米沢東高等学校)創立
1899	明治 32	福島～米沢間に鉄道開通
1901	明治 34	私立九里裁縫女学校(現九里学園高等学校)創立
1902	明治 35	米沢市立商業補習学校(現山形県立米沢商業高等学校)創立
1910	明治 43	米沢高等工業学校(現山形大学工学部)創立
1915	大正 4	館山に東レザー分工場米沢人造絹糸製造所が発足
1917	大正 6	米沢大火(代官町から出火、2,294戸焼失)。街区を大改正
1919	大正 8	米沢大火(館山口町から出火、1,385戸焼失)。市役所も類焼
1922	大正 11	米沢女子職業学校(現椎野学園米沢中央高等学校)創立
1936	昭和 11	米坂線が全線開通
1943	昭和 18	工学博士・東大名誉教授伊東忠太、文化勲章受章
1945	昭和 20	米沢市気象観測開始以来の最低気温-21.3℃を記録
1952	昭和 27	米沢市立米沢女子短期大学(現山形県立米沢女子短期大学)創立
1953	昭和 28	上長井村合併

西暦	年号	出来事
1954	昭和 29	米沢市名誉市民条例を制定。初の名誉市民に伊東忠太を推挙
1954	昭和 29	万世・広幡・六郷・塩井・窪田・三沢の 6 ヶ村を合併
1955	昭和 30	山上・上郷・南原の 3 ヶ村を合併。人口 95,714 人
1964	昭和 39	民法学者我妻榮、文化勲章受章。名誉市民
1966	昭和 41	栗子ハイウェイ開通
1967	昭和 42	羽越水害。雨量測候開始以来の大雨
1973	昭和 48	「旧米沢高等工業学校本館」重要文化財に指定。第一経済大学学 長平貞蔵、名誉市民
1975	昭和 50	水窪ダム竣工
1978	昭和 53	八幡原中核工業団地分譲開始
1989	平成元	市制施行 100 周年。人口 93,128 人
1992	平成 4	山形新幹線開通。べにばな国体開催
1995	平成 7	「上杉本洛中洛外図屏風」国宝に指定
2000	平成 12	米沢オフィス・アルカディア分譲開始
2001	平成 13	上杉家入部 400 年・上杉鷹山生誕 250 年祭開催。「上杉家文 書」国宝に指定。伝国の杜(上杉博物館)開館
2004	平成 16	日本画家・日本芸術院会員福王寺法林、文化勲章受章。名誉市民
2005	平成 17	米沢市市民栄誉賞を創設。第 1 号は元プロ野球選手皆川睦雄
2007	平成 19	綱木川ダム竣工
2009	平成 21	大河ドラマ「天地人」放送
2011	平成 23	東日本大震災発生(米沢市は震度5強を記録)
2014	平成 26	山形県立米沢栄養大学開校
2016	平成 28	新文化複合施設「ナセBA」開館
2017	平成 29	東北中央自動車道、福島大笹生 IC(福島市大笹生)～米沢北 IC (米沢市窪田町小瀬)開通
2018	平成 30	道の駅米沢開業
2021	令和 3	米沢市役所新庁舎開庁
2022	令和 4	8月3日からの大雨。大雨特別警報発表
2023	令和 5	米沢市立病院・三友堂病院新病院開院

米沢市市勢要覧 2024

令和 6 年 12 月発行

編集・発行 米沢市企画調整部魅力推進課

〒992-8501 山形県米沢市金池 5 丁目 2 番 25 号

☎0238-22-5111 FAX 0238-22-0498

E-mail miryoku-ka@city.yonezawa.yamagata.jp

URL <http://www.city.yonezawa.yamagata.jp>